

戦後、主に都市部では戦災や引き揚げその他の理由で両親を失ったいわゆる「戦災孤児」の問題があり、さらに深刻な「食糧不足」の問題が子供たちにも及んでいた。

進駐軍の兵士から菓子をもらう子供たち、両親を失った悲しみと不安の中で孤児の収容施設で生活する子供たち、学校に戻ってきた子供たち、かつて「敵」と教えられた外国の兵士と子供たちの交流の様子など、戦後の混乱の中で生活する子供たちのとまどいや屈託のない表情が見て取れる。



ボタン工場で働く孤児

収容された孤児たち。彼等は地元のボタン工場で働いた。

- 撮影地 不詳
- 昭和22年11月24日

子供たちと仲良くするMP

子供たちと仲良くするMP(進駐軍の憲兵隊)。

- 撮影地 札幌
- 昭和20年10月6日



学校給食

宮城県の数校に導入された学校給食の様子。仙台市原ノ町小学校を訪れ、その様子を視察するアメリカ兵。

- 撮影地 仙台市 原ノ町小学校
- 昭和24年2月8日